

今年度の特記事項

- ・ケアカルテ（記録システム）を導入し、情報共有と部署間連携が進んだ。
- ・特養、養護とも利用実績が目標に達し施設運営が安定した。
- ・東館の老朽化で予定外の故障があり、修繕費が増加した。
- ・2月末以降、新型コロナウイルスの感染防止を最優先に取り組んだ。

1.サービス向上に向けて利用者の満足を追求する

- 1) 快適で安心な生活を提供していくうえで快食・快便・快眠について取り組んだ。
(快食)・その方の食べやすい姿勢を写真や図などで示し、多職種で共通認識を持ち統一した対応が定着した。食事前の口腔体操を定例化した。
(快便)・ファイバー（粉末食物繊維）の使用は3年目を迎え排泄研究会を中心に検証を行ったが、効果は立証できず、取り組み方法の転換を行うこととした。
(快眠)・安眠できる環境として、熟睡している時間帯の巡視方法の検討を実施。次年度、ICTの活用と職員の負担の軽減と合わせて継続検討していく。
- 2) 安全な生活を送れるためにリスクマネジメントの取り組み
 - ・転倒や誤与薬等の事故報告は18件（前年比+3件）。ひやりハット431件（前年同数）発生要因と対応を検証し再発防止に向け取り組んだ。
 - ・1月にインフルエンザAに利用者：8名（特養7名、養護1名）職員：9名罹患した。市、保健所に報告し感染症対策を実施し、2週間で終息することができた。

2.施設運営の安定

- 1) 従来型特養では利用実績95.4%、地域密着型特養は入退所者が6名いたことが影響し94.1%。ショートステイでは入退所の入れ替えや、利用者の変動もあり89.3%であった。養護の在籍率は94%で多くの市区から問い合わせも増加した。
- 2) 2020年度栄養マネジメント加算の取得に向け多職種で定期的に検討を重ねた。
- 3) 職員体制は、常勤職員の退職5名、入職5名。非常勤職員の入職13名、退職10名。
- 4) 夜勤業務の整理を行いながら、夜勤者の適正人数化に取り組み始めた。

3.建物管理・保守(利用者が安全に暮らせるように維持する)

- 1) 東館ファンコイルバルブの交換・西館避難誘導灯の交換を行った。
- 2) 厨房のプラストチラー(急速冷却機)・空調設備が故障し更新工事を行った。東館受水槽の修理は次年度へ持ち越しとなった。東館の老朽化で修繕費が増加した。

4.地域支援の定着

- 1) 昼食会は、3,881食/332日、1日平均11.7食。職員食は2866食（454食増）。応援隊は、延べ1,874人のボランティア活動を通じ、緑苑の大きな力となっている。
- 2月26日から新型コロナウイルスの感染拡大防止のためどちらも休止とした。